

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600639		
法人名	有限会社 あすなろ		
事業所名	有限会社 あすなろ グループホームまごころ	ユニット名	
所在地	長崎県五島市富江町職人307-2		
自己評価作成日	平成24年6月20日	評価結果市町村受理日	平成24年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の通り「おもいやりとまごころ」を持ってケアするように心がけている。又、ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し、時間に追われることなく自由にのんびり暮らすことが出来る。行事の際には、利用者・ご家族・地域の方々等大勢招き、盛大な会を催し、皆様に喜んで頂いている。特に敬老会のプログラムは充実しており、多方面からの出し物も好評である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎県五島市にある“グループホームまごころ”は2つのユニットが隣接しており、両ユニットそれぞれの趣きがある。日々の生活はゆっくりとした時間が流れ、両ユニットの方々が集い、一緒に体操なども行われている。ご利用者同士の助け合いも多く、髪をどうしてあげたり、ソファで横になっている方に毛布をかけてあげたりと、日々の生活の中でお互いを思いやる姿が見られている。職員は感情不安定な方の思いにも寄り添い、その原因を見つめ続けている。死後の思いや不安を、泣きながら施設長や事務長に語られる方もおられ、抱きしめてさしあげる場面も日常にある。日々の食事も大切にされており、季節の花や葉っぱを食器に盛りつけるなど、彩りにも配慮し、梅干しやラッキョウ、切干し大根等の保存食の他に、ポン酢やドレッシングも手作りされている。家族の面会時は昼食やおやつなどを一緒に食べてもらい、家族の絆を大切にされている。事務長や計画作成担当者が自宅訪問を続け、家族から直接意見を伺う機会も作られている。職員は、ご利用者全員が元気に笑顔で過ごせるように、最期まで「ここで良かった」と思ってもらえるように、今日も“まごころ”いっぱいでのケアが続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと、これまでと変わらない生活が出来ることが大切にし、支援している。	「思いやりの心でまごころの介護を」という理念のもと、ご利用者の希望や不安の把握に努めている。優しい職員を採用しており、ご利用者の思いに職員は寄り添っている。会話の中で趣味などを聞き、裁縫や新聞紙ゴミ箱作り、食事の下ごしらえなど、ご利用者が持っておられるお力を発揮して頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方には普段から気軽に声を掛け、敬老会等の行事に招待したり、地元の祭りのみこしを招いたりするなど地域の一員として積極的に交流を図っている。	町内会に入り、ご利用者と一緒に回覧板を回し、町内の敬老会にも参加している。富江神社の神輿がホームに来て下さり、皆さんも楽しみに待っておられる。22年に初めて、ホームの誕生会で保育園児が踊りを披露して下さい、24年度はクリスマスに招待する予定である。近隣の方からお花や野菜、果物を頂く事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や入居者を交え、施設前のベンチで会話したり、ホーム内に招く事によって認知症の方への理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場は、家族、役所、地域の方々の情報交換も出来る為、今後も継続していきたい。	2カ月毎に開催し、ご利用者、家族、町内会長、民生委員、市の職員が参加して下さい。ホームの状況を報告しながら、参加者の方と意見交換を行っており、外部評価結果を報告時も、「皆さんが努力しているので、感謝しています」と言う言葉を頂いた。有意義な会議となっており、議事録には会議後の感想も残されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所へ積極的に足を運び、事業所の実情を伝え情報収集もしている。役所主催の研修等には必ず参加している。	申請の手続きやホーム便りを市役所に持参する時に、ホームの状況を報告している。富江支所の課長と係長は、毎回、運営推進会議に出席して下さい、「法改正の時など、わからない時はいつでも説明しに施設に伺います」と言っており、敬老会の時は、支所の課長がビデオ撮影をして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束禁止マニュアル」を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関、居室の施錠はせず、網戸にして開放している。	ご利用者個々の行動に目配りを続けている。ご利用者は自由に外出されており、近所の方も見守りをして下さっている。感情不安定がある方は、事務長とゆっくり話す機会を作ったり、般若心経と一緒に唱えている。職員と一緒に散歩して、お気持ちが落ち着く時もあり、その時の思いに添った支援を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とは何か、全職員が十分に理解しており、身体拘束廃止に関する外部研修にも積極的に参加している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員間で勉強し理解を深めている。(以前にも利用していた方や、他のユニットにも、現在利用している入所者がいるので勉強している)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時等、契約書や重要事項説明書などの重要箇所は線引きや繰り返し説明する事によって、十分理解し納得している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置。家族には、面会時や家庭訪問時に要望を伺っている。又、面会が少ない家族には、電話や文書で連絡を取り合い情報を得ている。	面会時や電話などで家族から相談を受ける事もある。毎月、計画作成担当者や事務長が自宅訪問し、家族から直接意見を伺っている。家族の面会時は、昼食、おやつなどを一緒に食べてもらい、家族の絆を大切にしている。「体調が悪くなったら教えてほしい」と言う家族の思いを理解し、密に連絡するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や雑談時、意見を出し合うことがある。申し送りを活用している。	全体ミーティングと共に、ユニット毎の会議もしている。感情不安定な方は原因を見つめ、職員全員で協力して見守り体制を作るなど、意見交換を続けている。職員は、ご利用者全員が元気に笑顔で過ごせるように、最期まで「ここで良かった」と思って頂けるように、日々、意見やアイデアを出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員とコミュニケーションを図り、各自が向上心をもって働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に計画を立て、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	食事会や敬老会、花見などの交流。他施設へ訪問し、勉強会に参加している。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入所者の言葉、行動を観察し、不安感がないか、同じ目線で話を聞き見極めるよう努めて、その方の側に座リスクインshipを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		家族の気持ち、要望を十分理解したうえで事業者としてできること、出来ない事を説明し納得していただき、サービスを実施している。(事前に話し合いをしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		本人、家族の要望を聞き、十分理解している。施設を何度か訪問していただき、顔馴染の関係を築き、信頼を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		日常生活の中で利用者と、調理や洗濯物たたみなどの共同作業の中から学ぶ事があり、又、手助けをする事で関係を築いている。(行事やしきたりなど入居者から学ぶ事が多い)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		来所の機会を作る為に、行事を企画したりしている。訪問時には、家族も一緒にレクリエーションに参加し、体操等を一緒にしたりすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		理美容院、洋品店、病院など入居者本人のこれまでの「つきあい」を大切にしている。	馴染みの美容院や洋品店に行き、お店の方が好みの洋服を選んで下さったり、郵便局に行き、家族宛ての手紙を投函される方もおられる。同法人の宅老所に知人の方がおられ、宅老所で一緒に昼食をしたり、知り合いの方が遊びに来られ、一緒に食事をする事も多い。馴染みのマッサージの方も来られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		髪をといてあげたり、ソファで横になっている方がいると毛布をかけてあげたりと、日々の生活の中で支え合っている光景がよく見られる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院見舞いに行ったり、他の施設に会いに行くなどしている。亡くなられた際には、葬儀に参列したり弔電を打っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して思いをくみ取る努力をし、本人の意向を優先的に考えている。話を聞いて解決困難な場合はそのままにせず、本人本位に検討している。	団欒時や入浴時の他、洗濯物を一緒にたたみながら、ご本人がやりたい事、食べたい物、行きたい場所などを伺っている。お話ができない方にも声かけを続け、表情や行動から思いを察するようにしている。施設長と事務長に、死後のことを泣きながら話される時もあり、抱きしめてさしあげる事も多い。	今後も更に、ご利用者と一緒に思いを語る時間が作れるよう、職員も意識していく予定である。役割や楽しみを増やし、介護計画にも盛り込んでいきたいと考えられている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーや家族からの情報でこれまでの生活の経過を把握している。使い慣れた家具を持ち込み、趣味を生かすための物品を持参したりする事で、個々の暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルを参考にするなど、入居者の心身の状態や、一人ひとりの一日の流れを全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所持、電話連絡により家族の意向、又入居者との会話の中で希望や思いを聞き取り、ケアプラン作成に活かしている。月に一回のモニタリングと三ヶ月に一度の計画の見直しを実施し、その時の状況に応じた介護計画を作成している。	担当職員が計画の原案を作成し、全職員で検討している。ご利用者が楽しみにされている買物やドライブ等も盛り込まれ、家族の役割も明記されている。計画には、ケアの内容や手順等も細かに記載し、24時間の日課表も作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化、気づき等は、申し送り帳や介護記録に記入し、全職員で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、入居者のその時の心身の状況や希望に応じて対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事以外にも地域の方々、地元の警察官、民生委員の方が訪問して下さり、又年二回の防災訓練実施時には、地元の消防署に協力依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を選択している。定期受診は職員が同行し、状態の変化が見られる場合は、家族へ連絡し、家族と一緒に主治医からの説明を受けるようにしている。	24年4月からふれあい診療所の先生が変更になったが、気軽に相談できる先生で、往診も月1回ある。受診の通院介助は職員が行い、アドバイスをして下さっており、受診内容は家族と共有できている。主治医にお願いして、ホームで感染症の講義をして頂く等、医師との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関主催の勉強会へ参加した時や受診時に相談したり、往診時に診療所の先生等に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も利用者が安心して治療が出来るよう職員が交代で面会に行き、経過を把握している。退院時には主治医から看護サマリーを頂き、口答での説明も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所として対応できること出来ない事を説明し、納得した上で主治医、家族からの意見要望を取り入れケアを行えるよう努めている。	「最期は病院で・・・」と言う方も多い。ホームでの看取りを希望される場合は、事業所が医療機関ではないことを十分理解頂いた上で、可能な限りホームで生活頂けるように努めている。ご利用者の体調変化に応じて、家族と主治医を交えて話し合い、方針の共有に努めている。医療機関への相談、家族への協力依頼と共に、職員間での勉強会も行い、看取り支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時、緊急対応マニュアルに沿った勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防総合実践訓練を年二回実施している。緊急時に備えて地域住民へ協力を依頼し、了解を得ている。	年に2回、防災管理会社と消防署立会いのもと、ご利用者と宅老所と合同で訓練している。あらかじめ町内会長と地域の消防団員に協力依頼を行い、災害時にはホームの自動火災通報装置を通して連絡されるようになっている。災害時に備え、水や食料、非常持ち出しバック、緊急時連絡一覧表等を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は「〇〇さん」と苗字で声掛けし、居室へ入室の際はノックをするなどプライバシーの尊重に心がけている。	優しい職員が勤務しており、理念の通り“まごころ”を持ったケアが行われている。職員の休憩室には“非4原則(してはいけない事)”を掲げており、職員が業務に入る前に確認するようにしている。地域密着型ということもあり、地域の方々と交流する機会も多く、職員は、個人情報の漏洩には細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望、思いを引き出すと共に自己決定できるような言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ自由にテレビを見たり、隣りに遊びに行ったり、居室でくつろいだりと自分のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望するなじみの美容院を利用して頂いている。お化粧される方には側で声掛けし、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの料理をメニューに加え、皆で楽しい食事の時間を過ごしている。職員を利用者の方と一緒に食事の準備や片付けをお願いしている。	3食とも職員が手作りしている。ご利用者も食材の皮を剥いたり、味見や片づけ等をして下さっている。季節の花や葉をテーブルや食器などに盛りつけるなど、彩りにも配慮している。施設前でパーベキューも楽しまれ、梅干しやラッキョウ、切干大根等の保存食の他に、ポン酢やドレッシングも手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの適当な水分、食事摂取量を把握し、食事量のチェックをしたり、水分量を確保する為の定期的な水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、必ず口腔ケアを実施し、コップ、歯ブラシ等の消毒も実施し、清潔に心がけている。義歯はポリドントを使用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握(排泄チェック表の活用)し、食事の前後等、定期的にトイレ誘導し自立に向けた支援をしている。	ご利用者の排泄間隔に応じたトイレ誘導を行っている。ご本人の行動から“トイレでは”と気づいた時には、早めのトイレ誘導を心がけている。パットの枚数が減ったり、紙パンツから失禁パンツや布パンツに切り換える事ができた方もおられる。トイレにカーテンをかけたリ、居室で着替えて頂く等、羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲用して頂いたり、料理献立には牛乳や根菜を多く食材に取り入れる工夫をしている。又、身体を適度に動かすよう言葉掛けもしている。(必要な時は、薬服用)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者本人の希望やその日の体調を考慮し、いつでも入浴出来るよう環境作りをしている。入浴時は、職員と楽しく会話しながらゆっくりと入浴して頂いている。	最低週3回は入浴できるようにしており、希望を伺いながら入浴支援を行っている。お好みのシャワーや石鹸を使われる方もおられ、希望や体調に応じてシャワーや清拭をしている。入浴を好まれない方には無理強いせず、時間を置いて声かけを行い、入浴時は職員との会話を楽しまれている。季節に応じて菖蒲湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の身体能力を十分考慮し、無理させないような言葉掛けをしている。疲れた時は、居室でゆっくり休んで頂いている。(冬場は湯たんぽを使用している)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を十分理解し、薬の目的、作用、副作用を確認しながら、服用の支援をしている。体調の変化を見逃さないよう観察を十分に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を活かし、縫い物や調理準備、掃除など自分の得意な事を楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、身体状態を考慮し、可能な限り利用者本人の希望する場所へ散歩、ドライブ、買物等に同行している。	施設長・職員・ご利用者も外出が大好きである。ホーム周辺は車の往来も少なく、ご利用者はホーム周辺の散歩を楽しんでいる。道に咲く花を摘み、ホーム内に飾られている。通院の帰りに回転焼きなどを食べる時もあり、季節ごとの花見や海を見に出かけている。近隣の施設の中にある喫茶店にコーヒーを飲みに行く事もあり、1日2回はホームの車のエンジンをかけるようにしている。	今後も引き続き、多くのご利用者と一緒に外出を楽しんでいきたいと考えられている。座位が困難な方も、外気浴を含めて気分転換ができる方法を検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名は、自己管理されており、金銭の紛失事故を防止する為に、職員の見守りの元入所者本人の希望に応じ、買物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば、居室に子機を持参し、会話して頂いている。又、手紙の読み書きが出来ない方は、代読、代筆の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレもカーテンで目隠しし、プライバシーを損なわない配慮をしている。玄関、食堂は季節の花を飾るなどして、落ち着いたような空間作りに心がけ心地よく過ごせるような工夫をしている。	両ユニットでリビングの広さが異なるが、ご利用者同士の会話が楽しめるようにソファの位置も工夫し、洗濯物をたたみながら、皆さんで会話を楽しまれている。難聴の方も多く、職員はテレビの音量や部屋の明るさの調整等、環境への配慮を細かに行っている。ホールの壁には行事の写真が掲示され、テーブルには季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で過ごしたり、食堂で過ごしたりと、それぞれのんびり過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているものは、身近に置いて、家の中に居る感覚で過ごして頂いている。(使い慣れた物品の持込を勧めている)	ベッドは備え付けであり、入居の時に馴染みの物を持ってきて頂くように伝えている。自宅で使っておられたタンスや写真、裁縫箱、テレビ等と共に、お仏壇を部屋に置かれている方もおられる。ご利用者と相談しながら、タンスの位置やベッドの向きを変えるなど、居心地良く過ごして頂ける工夫を続けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の生活の中で身の回りの事など出来る限り、自分で出来るよう支援する。利用者本人が悩んだり手助けが必要な時は、さりげなく支援する。建物内部各所には、自立が出来るように手すりを設置し安全を重視した環境作りに心がけている。		

事業所名: グループホーム まごころ

作成日: 平成 24 年 10 月 23 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	一年間の計画を一覧表にまとめる	一年間の計画一覧表を作成する	一年間の計画を話し合い、予定を立てる	随時 ヶ月
2	11/13	行事担当を決めて、職員が積極的に取り組む	職員の一人ひとりの成長を促がす	行事担当者を決めていく	随時 ヶ月
3	5	推進会議の時、多くの方々の意見を聞き、介護やその他の事に反映していく	推進会議をもりあげて、多くの方々に参加していただく	多くの方々に参加の声掛けをしていく	常に ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月